

2025年3月期 決算説明会資料

2025年5月29日

鉦研工業株式会社
代表取締役社長 木山隆二郎



目次

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 2025年3月期決算概要
4. 2026年3月期業績予想
5. 持続的PBR1倍以上に向けて
6. 中期経営計画『STEPUP 鉤研 ACTIONS2025』の今後

1. 会社概要

2. 事業内容

3. 2025年3月期決算概要

4. 2026年3月期業績予想

5. 持続的PBR1倍以上に向けて

6. 中期経営計画『STEPUP 鉦研 ACTIONS2025』の今後

項目	内容
会社名(英語表記)	鉦研工業株式会社 (KOKEN BORING MACHINE CO.,LTD.)
設立年月日	1947年10月16日
本社所在地	東京都豊島区高田2丁目17番22号
決算	3月
資本金	11億6,541万円
上場市場	東証スタンダード市場
代表取締役社長	木山 隆二郎
社員数	連結 305名(2025年3月末／臨時雇用者を除く)
事業内容	ボーリング機器製造・販売及び関連工事施工等
連結子会社	構造工事株式会社、株式会社クリステンセン・マイカイ、 株式会社Kアドバンス(2025年4月より)

1. 会社概要

2. 事業内容

3. 2025年3月期決算概要

4. 2026年3月期業績予想

5. 持続的PBR1倍以上に向けて

6. 中期経営計画『STEPUP 鉦研 ACTIONS2025』の今後

1. 各種ボーリング・グラウト機器製造・販売

建設事業計画の立案から建設完成までの様々な段階でボーリングマシンやグラウト機械が使用されています。最近では、地震や津波、台風などの自然災害に対する国土強靱化計画が進められています。当社は地質調査や地盤改良工事、災害対策工事、深海から南極まで当社の製品は様々な場所と分野で貢献し続けています。

2. エンジニアリング・工事施工

ボーリングマシンのトップメーカーであることを最大限に活かし、ONE & ONLYの技術を駆使した独自の機械・工法により先進調査トンネル調査工法、超長尺水平コントロール工法、地下水ビジネス並びに直径6M、深度500Mの立坑レイズボーリング工法でブルーオーシャン市場を開拓しています。

ボーリングマシンの
トップメーカー

地下開発の
エンジニアリング、
施工

KOKENのボーリング機器はロータリーパーカッションドリルを中心に設計・製造・販売して参りましたが、これまで70年来変わらないボーリング作業の標準作業手順を改変すべく設計思想の中に鉋研スピリット3Sを導入しております。



- **Safety**:安全、安心
- **Save**:省力化
- **Satisfaction**:顧客満足

自動貫入試験掘削機
維新黒船KMD-50C



遠隔移動式RPD-70C
雷穿



鷲掴み2号



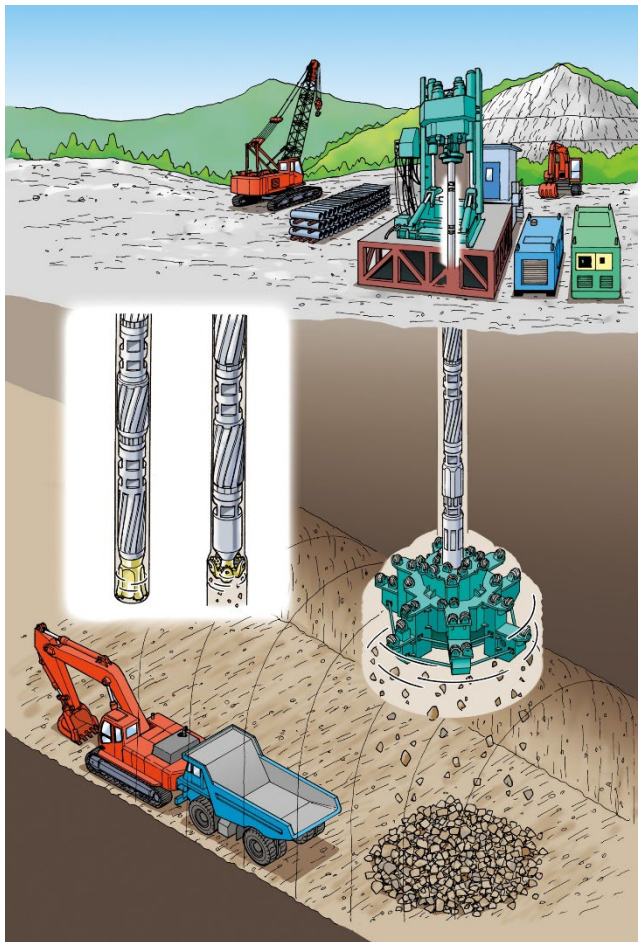
鷲掴み1号

全自動ボーリングロボット
ABM-10



KOKENの施工エンジニアリングはONE & ONLYの技術を駆使した独自工法が特徴です。

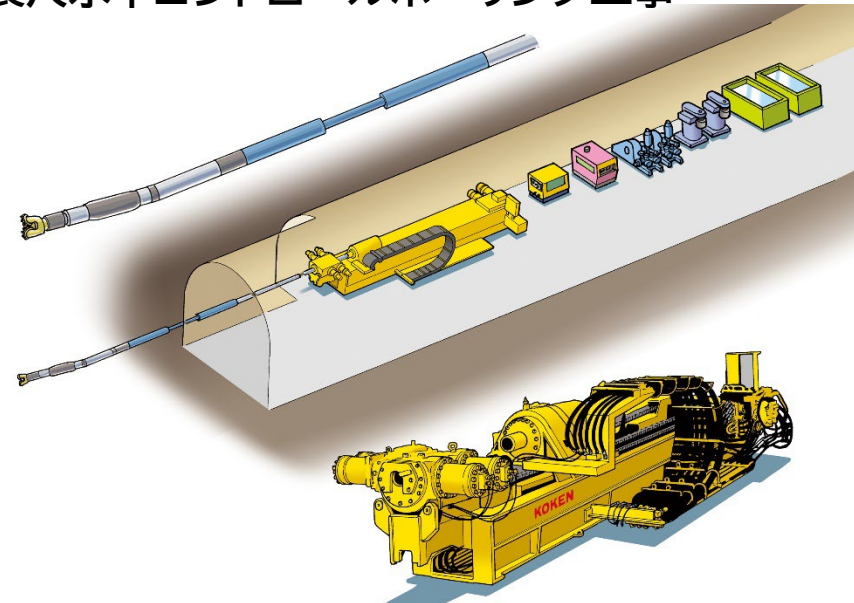
大口径岩盤掘削工事



PSワイヤラインによるトンネル前方調査工事



長尺水平コントロールボーリング工事



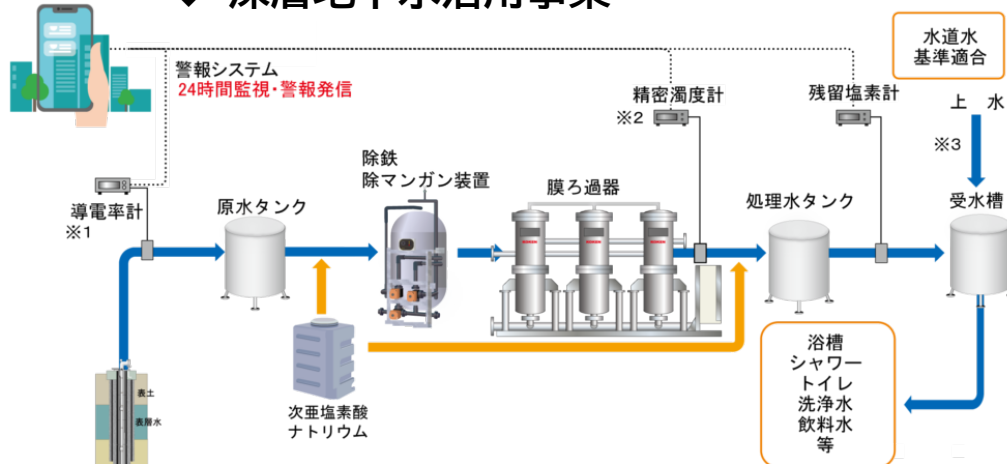
このONE & ONLYの技術とノウハウで地下水ビジネスを推進しています。

◆ 温泉掘削工事



日光での温泉掘削

◆ 深層地下水活用事業



浄化装置の設置/運用



■ 今後の方向性

海外工事は、施工中のベナン給水工事は2026年で終了予定、その後はアフリカ内における電子決済サービスを活用した地下水ビジネスの進出を図る予定



ベナン水道敷設工事



ウガンダ水事業

- グループ会社の構造工事株式会社は、首都圏再開発案件に伴う新築ビル建設工事における土留めアンカー工事の大型案件の受注獲得と施工を継続中であります。

構造工事株式会社 アンカー現場



事業内容 グループ会社

- グループ会社の株式会社クリステンセン・マイカイはダイヤモンドビット、ワイヤラインツールの製造販売のほか、海外からのダウンホールモータ、水中ポンプなどの輸入販売も手掛けている会社です。地熱開発における技術サービスを手掛けています。

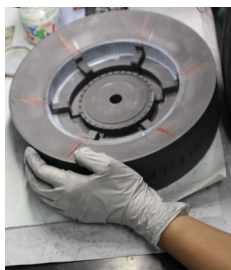
株式会社クリステンセン・マイカイ 取扱品目



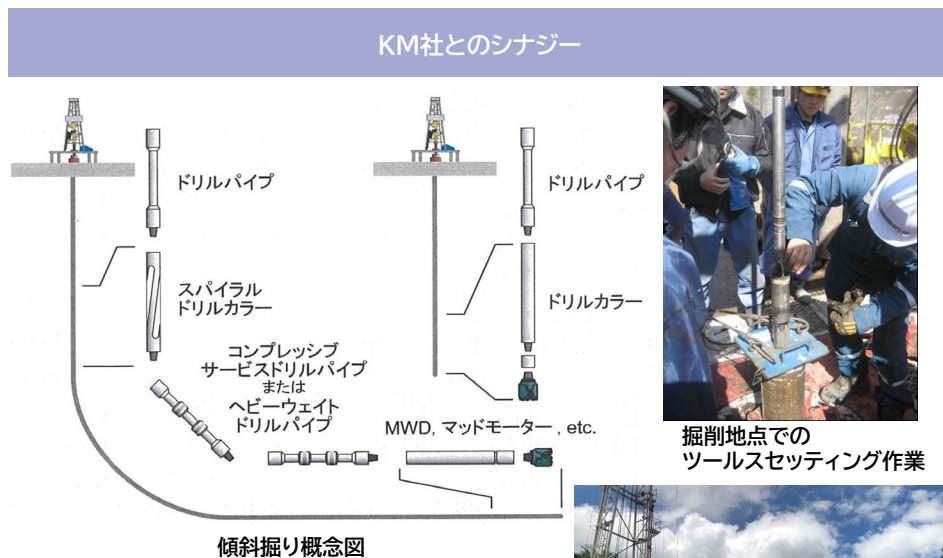
豊富なダイヤモンドビットラインアップ



井戸や温泉掘削に欠かせないマッドスクリーンも取り扱っています。



ビット製作は職人の技を必要としています



掘削地点でのツールセッティング作業



掘削現場全景

- 株式会社Kアドバンスとは長年、長尺水平コントロールボーリングマシンとPSワイヤライン前方調査工事を協働で施工して参りました。2025年4月1日に鉤研グループに仲間入り致しました。

株式会社Kアドバンス

長尺水平コントロールボーリング



PSワイヤラインによるトンネル前方調査工事



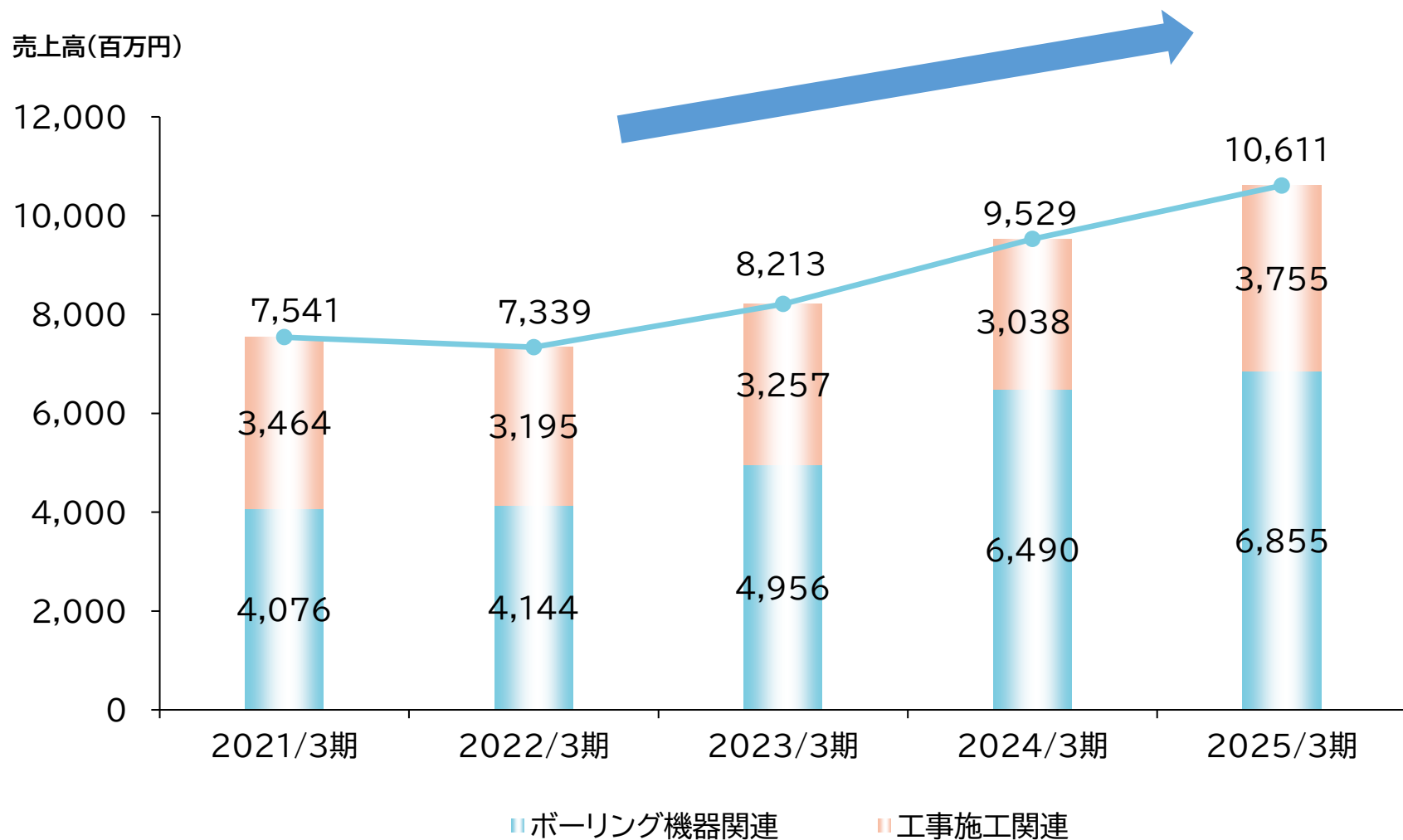
1. 会社概要
2. 事業内容
3. 2025年3月期決算概要
4. 2026年3月期業績予想
5. 持続的PBR1倍以上に向けて
6. 中期経営計画『STEPUP 鉦研 ACTIONS2025』の今後

売上高の推移

■ 2025年3月期については売上高は106億円と増収

■ 鉦研工業単体売上高は71億円と5億円の増収

売上高(百万円)



要約連結損益計算書



- 売上高は1,081百万円増加し、原価率悪化も営業利益は16.8%増加し653百万円
- 当期純利益※は456百万円

単位:百万円

	2023/3期	2024/3期	前期比	2025/3期	前期比増減	
売上高	8,213	9,529	1,315	10,611	1,081	11.4%
売上原価 (原価率)	6,036 (73.5%)	6,639 (69.7%)	603 (▲3.8Pt)	7,526 (70.9%)	886 (1.2Pt)	13.4%
売上総利益	2,177	2,889	712	3,085	195	6.8%
販売費管理費	1,915	2,330	414	2,431	101	4.4%
営業利益	261	559	298	653	93	16.8%
経常利益	157	477	320	581	104	21.8%
当期純利益※	185	299	113	456	156	52.3%
R O E	4.0%	6.2%	2.2Pt	8.8%	—	2.6Pt

※ 当期純利益:親会社株主に帰属する当期純利益

受注状況(受注高・受注残高)

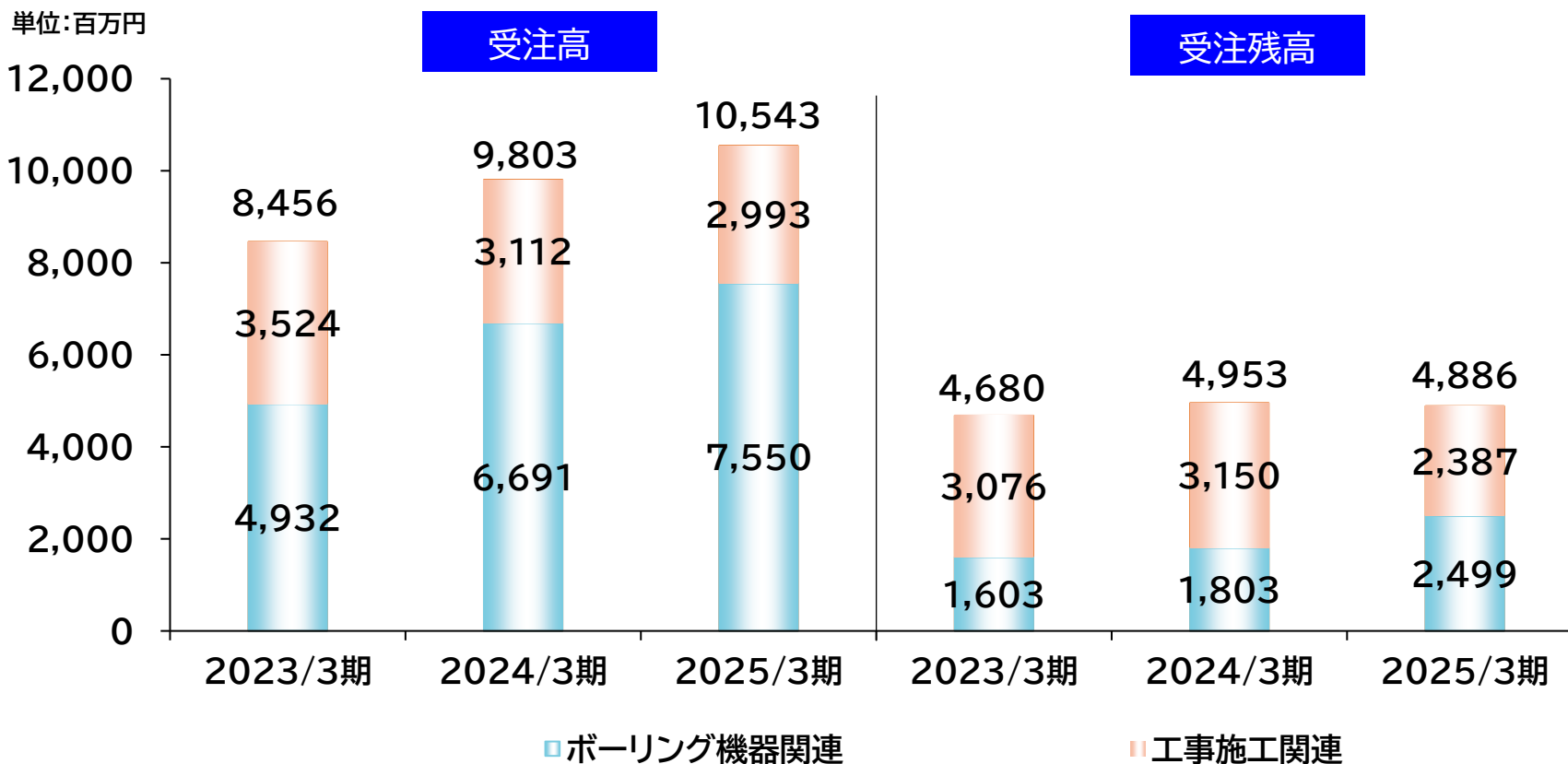
■ 受注高: 2025年3月期実績 10,543百万円(前期比740百万円増加)

■ 受注残高: 2025年3月期実績 4,886百万円(前期比 67百万円減少)

・受注高と受注残高の主な増減要因

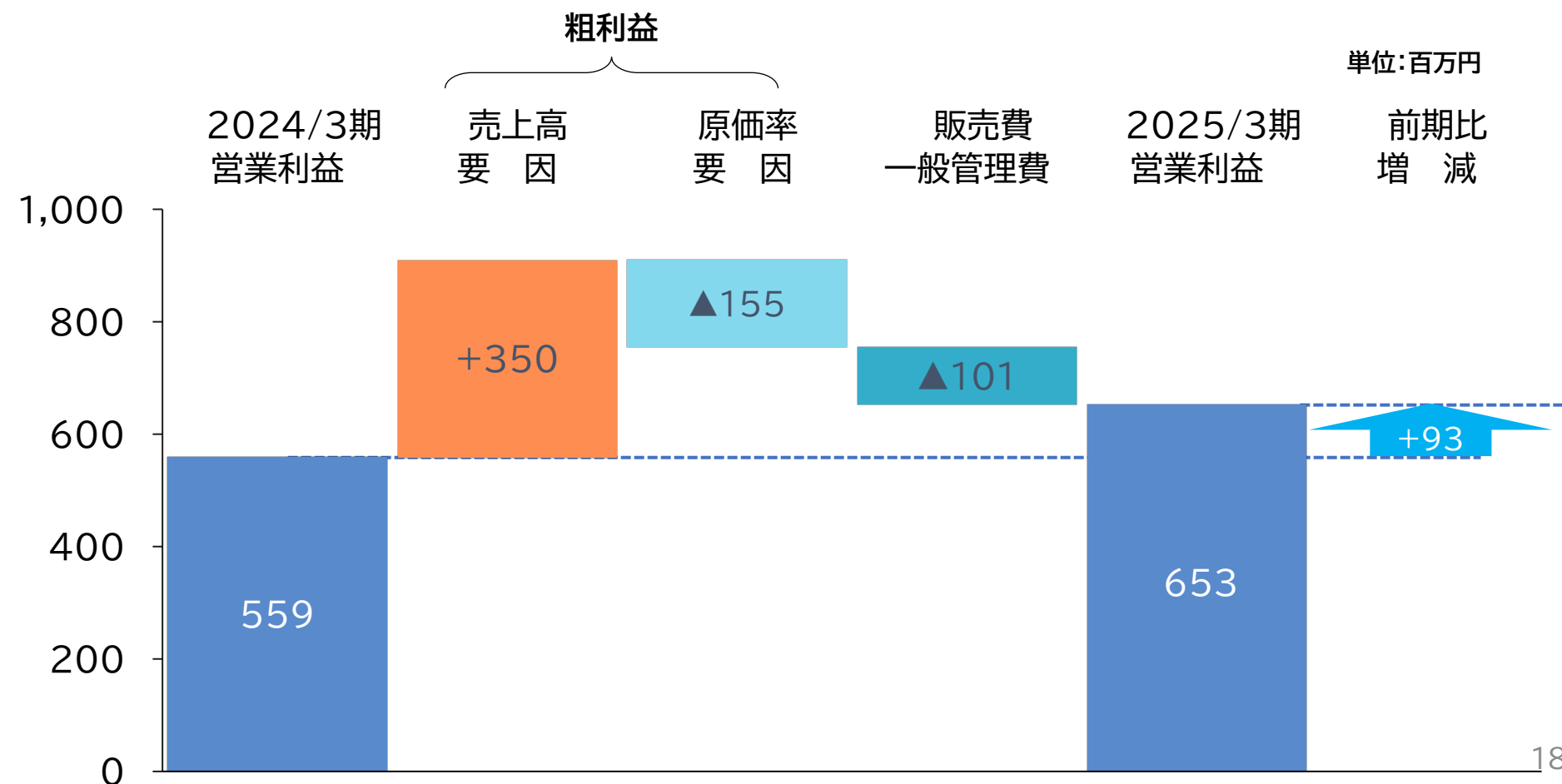
➤ ボーリング機器は中国市場向製品の受注や個社オーダーの自動掘削機、水中ポンプの受注が伸長

➤ 工事施工はトンネル工事の減少や海外ODA工事の前年受注分が無くなった事により受注高・受注残高は減少



前期との営業利益差異要因

- 売上高要因については売上高増加(1,081百万円)の影響で350百万円増加
- 原価率要因については(69.7%→70.9%)1.2Pt悪化し、155百万円減少
- 販売費一般管理費については前期比増加により▲101百万円



連結貸借対照表の概要

単位:百万円

科目	2024/3期末	2025/3期末	前期増減額
資産の部			
流動資産	8,205	8,919	713
固定資産	5,282	5,021	▲260
資産合計	13,488	13,941	453
負債の部			
流動負債	4,305	4,777	471
固定負債	4,209	3,818	▲390
負債合計	8,514	8,595	80
純資産の部			
株主資本合計	5,050	5,417	366
その他の包括利益 累計額合計	▲77	▲71	5
純資産合計	4,973	5,345	372
負債純資産合計	13,488	13,941	453

現金預金:125
売上債権:929
棚卸資産:▲409
前渡金:64

設備投資: 91
のれん償却額:▲49
減価償却費:▲249

短期借入金:50
未払費用:378
契約負債:157
未払法人税等:59
賞与引当金:41
仕入債務:▲217

長期借入金:▲361
(内、返済▲369、その他8)

配当金支払:▲101
当期純利益:※ 456

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

連結キャッシュ・フロー(CF)の状況

単位:百万円 注)連結貸借対照表の増減額と一致しない科目もあります。

科目	2024/3期末	2025/3期末	前期増減額
営業CF	473	529	56
投資CF	▲37	53	91
財務CF	▲82	▲461	▲378
現金等期首残高	1,304	1,658	353
現金等期末残高	1,658	1,780	122

当期純利益:※581
 減価償却費:249
 棚卸資産の減少額:409
 未払費用の増加額:379
 のれん償却額:49
 売上債権の増加額:▲929
 仕入債務の減少額:▲214

投資CFの内訳

項目	金額
保険積立金の解約による収入	116
有形固定資産の取得による支出	▲42
無形固定資産の取得による支出	▲1
その他	▲20
投資CF合計	53

短期借入金の純増加:50
 リース債務返済支出:▲20
 長期借入金返済支出:▲389
 (内、長期返済▲369、1年内返済▲19)
 配当金支払額:▲101

※税金等調整前当期純利益

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 2025年3月期決算概要
4. 2026年3月期業績予想
5. 持続的PBR1倍以上に向けて
6. 中期経営計画『STEPUP 鉦研 ACTIONS2025』の今後

2026年3月期 業績予想



■2026年3月期については安全省力化として3S製品と海外協業製品の販売強化と自動化の開発促進を図る。

- ボーリング機器: 鉋研スピリット3S(SAFETY:「安全、安心」、SAVE:「省力化」、SATISFACTION:「顧客満足」)の製品の市場投入を加速させる。
- 工事施工: トンネル調査工事、大型ODA案件(アフリカベナン共和国)、大型アンカー工事、構造工事・Kアドバンスと共に売上増加を図る。

単位: 百万円

	2024/3期 実績	2025/3期		2026/3期	
		実績	前期比	予想	前期比
売 上 高	9,529	10,611	+11.4%	11,500	+8.4%
営 業 利 益	559	653	+16.8%	900	+37.7%
経 常 利 益	477	581	+21.8%	800	+37.5%
当 期 純 利 益 ※	299	456	+52.3%	560	+22.7%
1株純利益(円)	35.45	53.87	+52.0%	66.04	+22.6%

※当期純利益: 親会社株主に帰属する当期純利益

業績予想ーセグメント

- 前期増減要因: 個社オーダーの自動掘削機等で売上高は増加も、仕入部品調達価格の高騰もありセグメント利益は減少
- 売上高: 主要機・部商品・ツールス計画生産とカスタマーサポートセンター新設でのメンテナンス体制強化、海外協業製品販売の強化
- 利益 : 製造本部の生産性向上、原価管理の強化、販売費一般管理費の部門別予算管理の実施

単位: 百万円

ボーリング機器関連	2024/3期	2025/3期		2026/3期	
	実績	実績	前期比	予想	前期比
売上高	6,490	6,855	5.6%	7,600	10.9%
セグメント利益 (営業利益)	367	278	▲24.0%	586	110.1%

- 前期増減要因: 温泉工事、アンカー等工事、海外ODA工事の施工増加で売上増加、原価率の改善に努めセグメント利益は増加
- 売上高: 大型ODA案件(ベナン共和国)、コントロール工事、地下水関連工事等で売上増加を図る
- 利益 : 海外為替動向に留意した収益管理、販売費一般管理費の部門別予算管理の実施

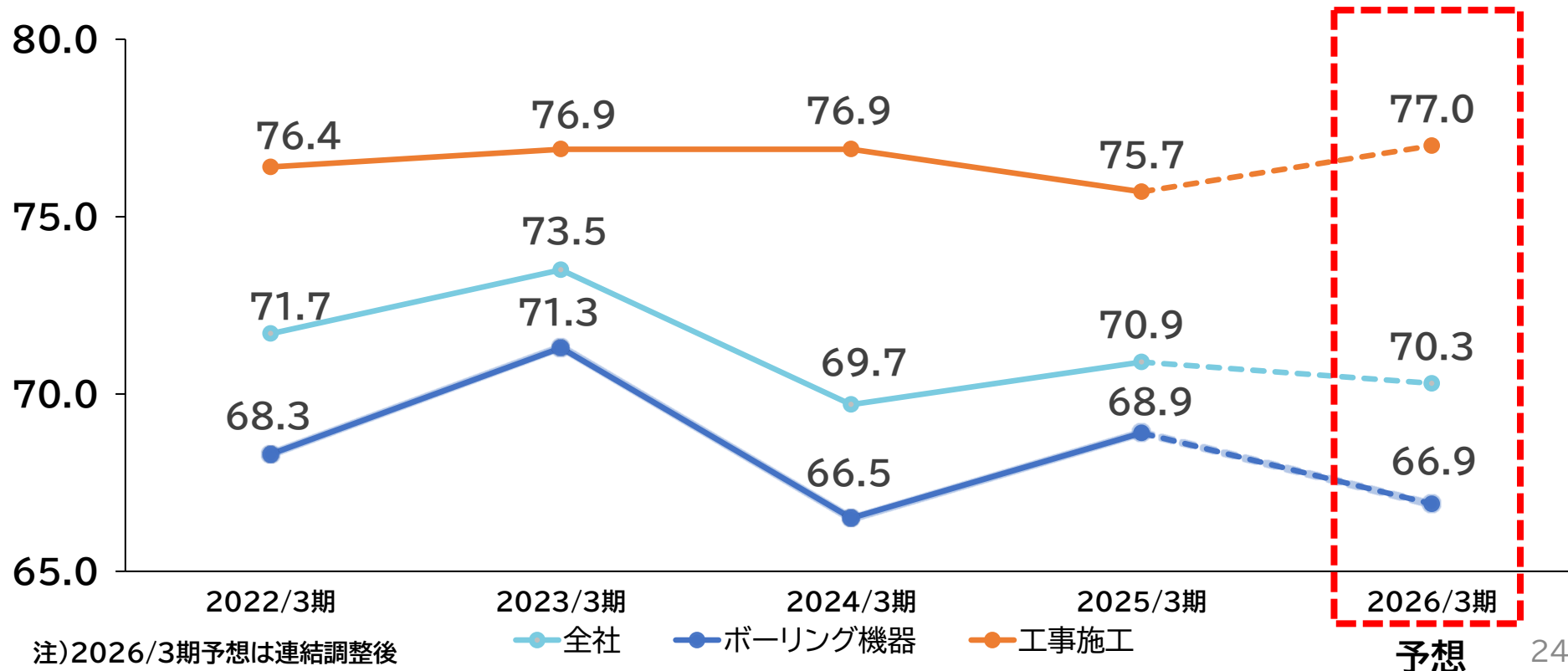
単位: 百万円

工事施工関連	2024/3期	2025/3期		2026/3期	
	実績	実績	前期比	予想	前期比
売上高	3,038	3,755	23.6%	3,900	3.8%
セグメント利益 (営業利益)	190	380	99.6%	314	▲17.5%

業績予想ーセグメント別原価率(連結調整前)

- ボーリング機器関連の原価率は66.9%(売上高は10.9%増加を見込み、原価率は前期比2.0Pt減少予想)
 - 本体売価調整と部商品・ツールの原価管理・売価調整を密に行い、良原価率の部商品・ツール類の販売量を増加させる事で原価率改善を行う。
- 工事施工関連の原価率は77.0%(売上高は3.8%増加を見込み、原価率は前期比1.3Pt増加予想)
 - 工事単価の引き上げ等原価率の改善に努め、付加価値を高めることで原価の低減努力を行う

原価率(%)



株主還元・ROEについて

株主への利益還元と健全な財務基盤の確立、成長投資のバランスから配当性向30%程度とする方針に基づき、2026/3期における配当1株当たりを18 円を予想

	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2025/3期 実績	2026/3期 予想
1株当たり配当金	8.00円	12.00円	15.00円	18.00円
1株純利益	22.03円	35.45円	53.87円	66.04円
配当性向	36.3%	33.8%	27.8%	27.3%

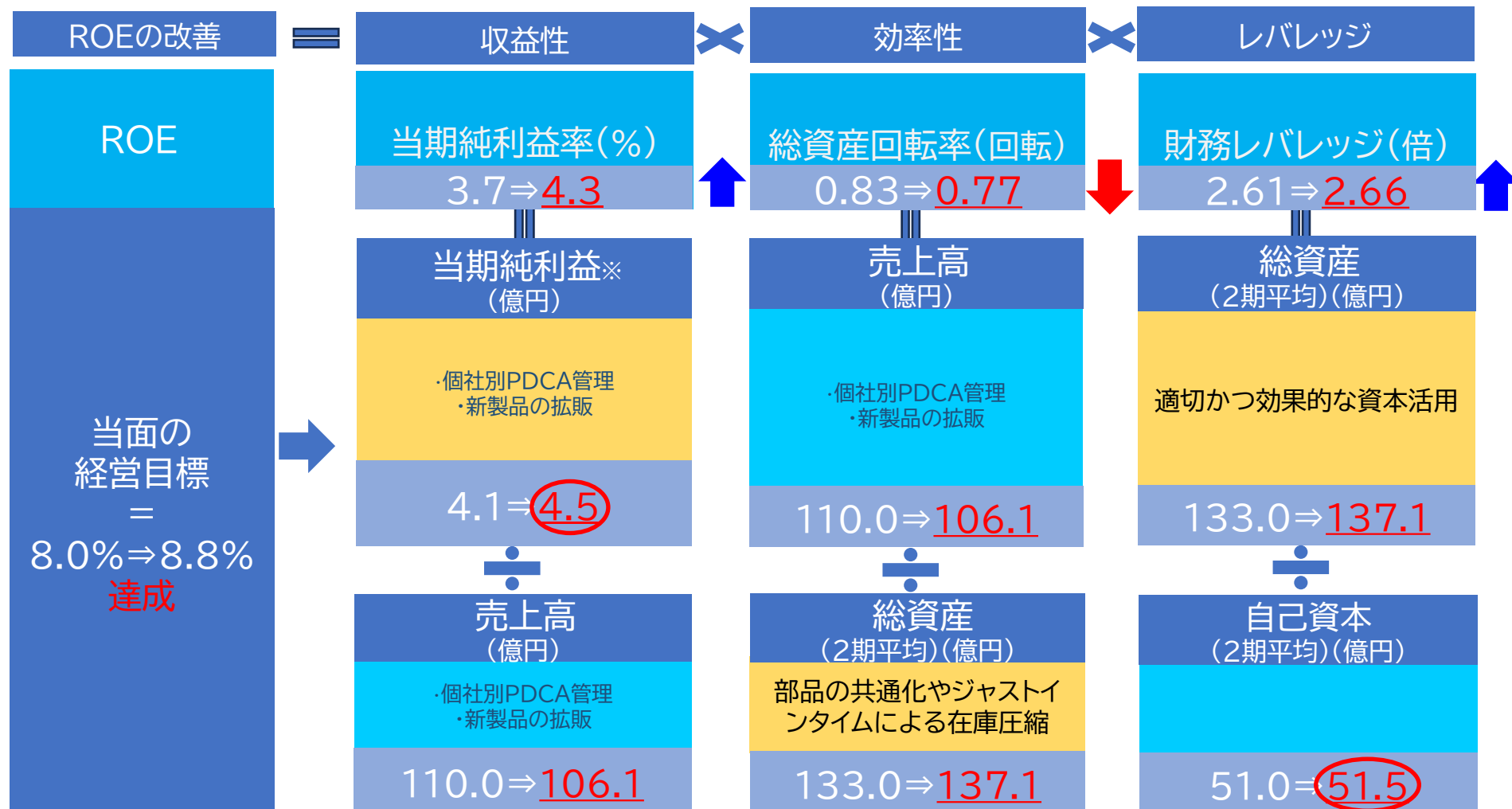
- ✓ 当社グループではROEを重要指標として位置付けて、2025/3期の目標は7.3%⇒8.8%で達成
- ✓ 2026/3期予想を10.0%にしております。

	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2025/3期 実績	2026/3期 予想
R O E	4.0%	6.2%	8.8%	10.0%

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 2025年3月期決算概要
4. 2026年3月期業績予想
5. 持続的PBR1倍以上に向けて
6. 中期経営計画『STEPUP 鉦研 ACTIONS2025』の今後

持続的PBR1倍以上に向けて

- 予想に対し総資産・自己資本の増加をカバーする形で当期純利益※が増加しROE8.8%となる。
- 上記増加の主な要因は、売上高減少で粗利益：▲0.6億円も販管費：▲0.2億円、営業外費用：▲0.2億円、その他：▲0.6億円(粗利益以外▲は利益に対して+)=4.1⇒4.5億円(+0.4億円)

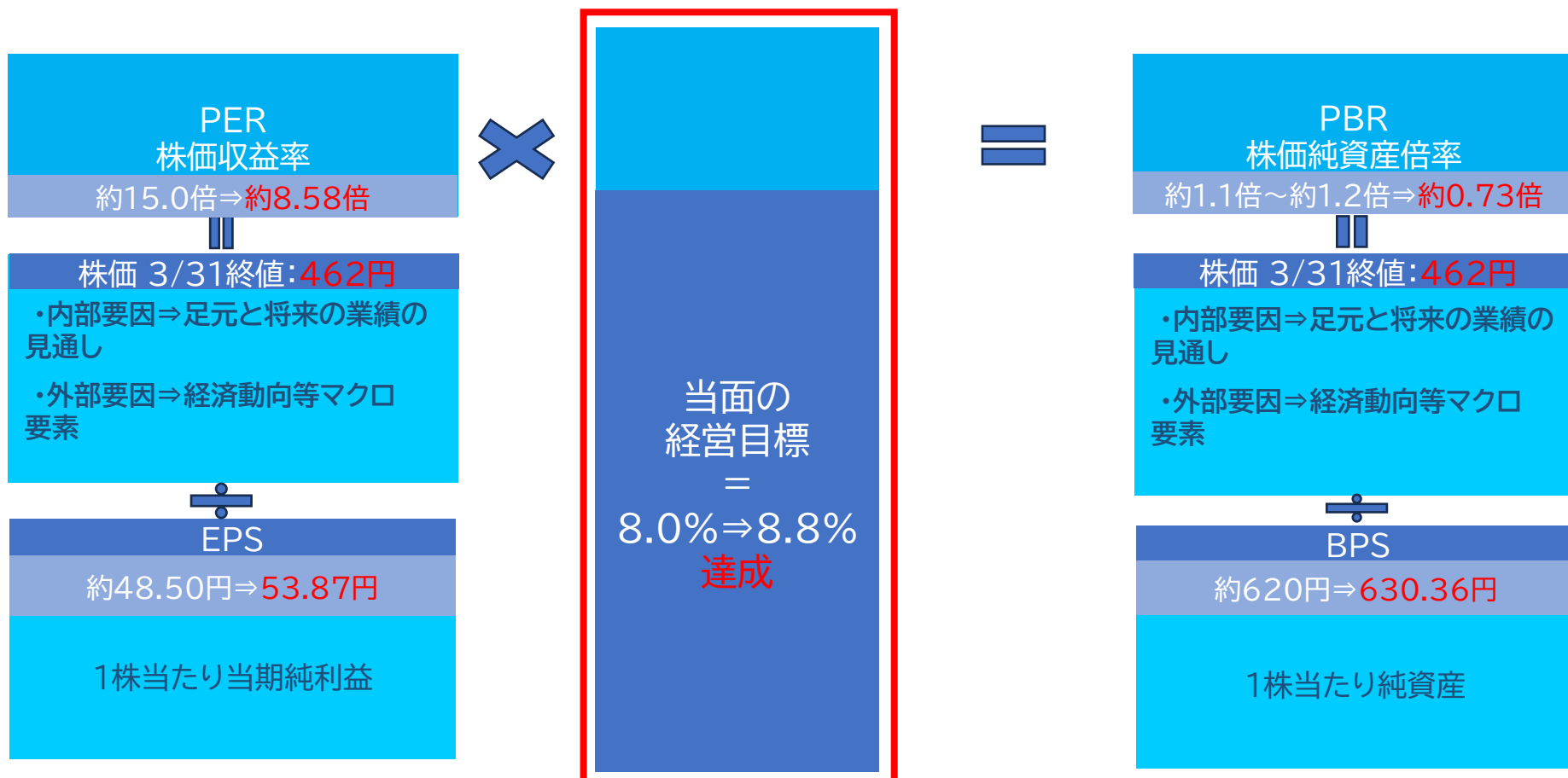


※親会社株主に帰属する当期純利益

持続的PBR1倍以上に向けて

- 2025/3期のROEは8.8%となり当面の目標の8.0%を達成

今後はONE & ONLYの機種開発や鉦研スピリット3Sをコンセプトにした機種販売促進に加え、ROICツリー等を社内展開しPBR1倍以上に向け対策を行っていきます。



- なお、2026年度以降の中長期経営計画がまとまり次第、「資本コストや株価を意識した対応」について開示予定です。

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 2025年3月期決算概要
4. 2026年3月期業績予想
5. 持続的PBR1倍以上に向けて
6. 中期経営計画『STEPUP 鉦研 ACTIONS2025』の今後

新中期経営計画の概要

***GROWING UP** 鉦研 **ACTIONS** Phs2 2030*

A: Action(行動)

C: Cost Reduction(コスト削減)

T: Topical Production(話題性のある製品・部商品の開発)

I: Initiative Marketing(創造性のある営業活動)

O: Organization Reactivation(組織の再活性化)

N: New Managing Strength(新しい経営体質)

S: SDGs(持続可能な開発目標の達成)



STEP UP 鉦研 ACTIONS 2025

から

GROWING UP

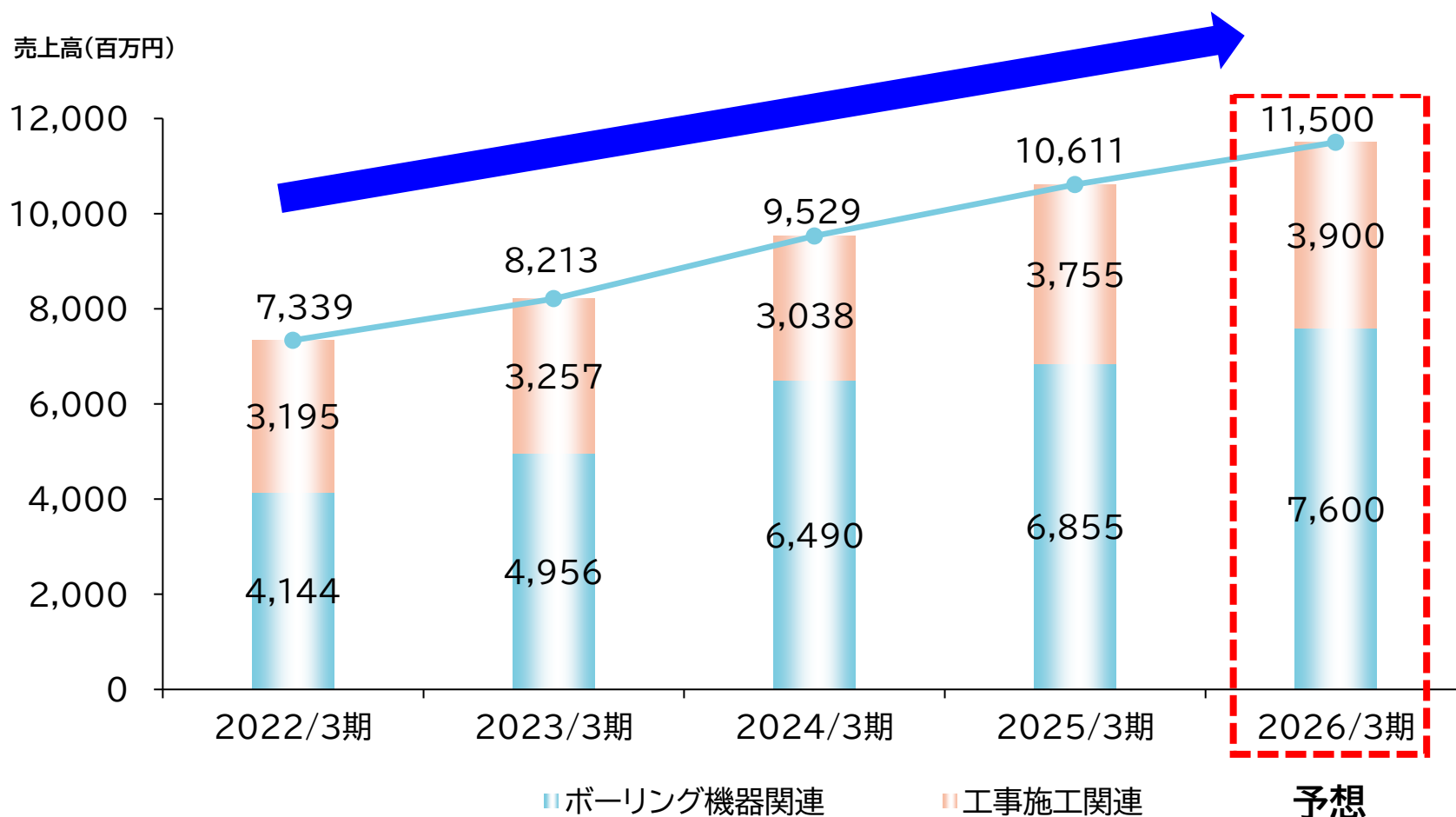
鉦研 ACTIONS Phs2

2030 へ

トウ ゼロ スリー ゼロ

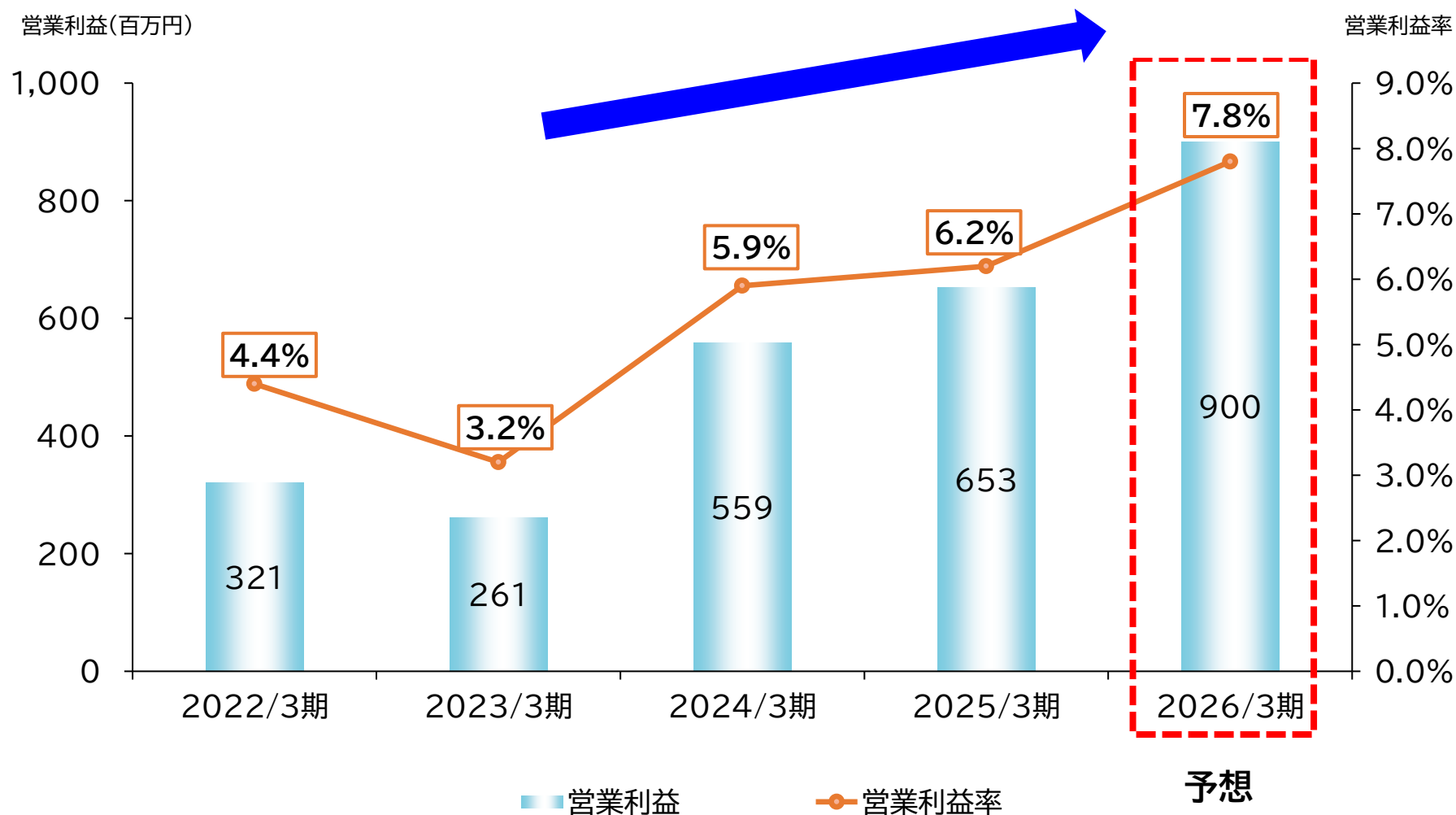
業績予想含む一売上高の推移

- 直近四期売上高73億円から106億円の推移が、2026/3期は115億円の見込み
- ボーリング機器関連:3S製品と海外協業製品の販売強化と自動化の開発促進を図り76億円へ
- 工事施工関連:海外工事、地下水ビジネスの増加もあり39億円へ

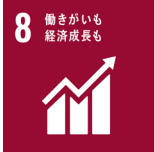


業績予想含むー営業利益・営業利益率の推移

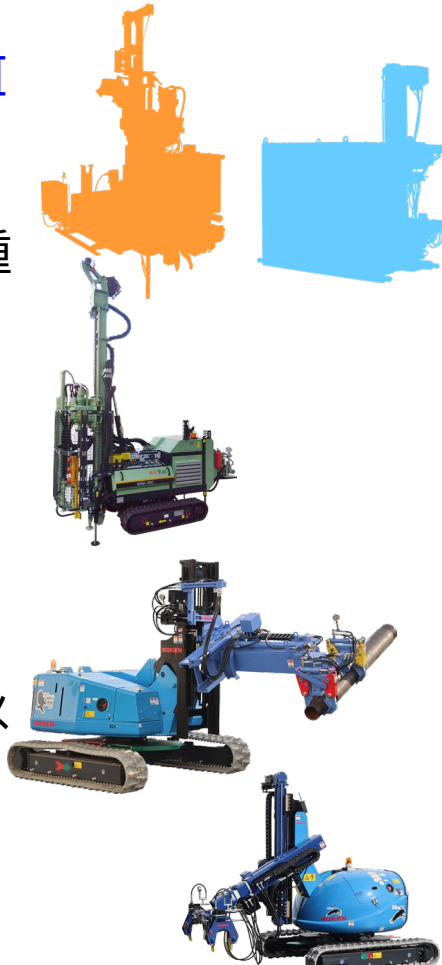
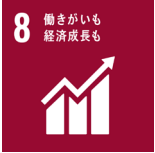
- 2026/3期については、営業利益900百万円、営業利益率7.8%の見通し。



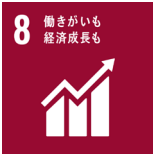
ACTIONS Phs2 2030の取り組み

ACTIONS	課題解決への施策	SDGsとの関係
Action (行動)	➤ DE & I(ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン)を意識した社員の主体的行動の推進  	 
Cost Reduction (コスト削減)	➤ 一人当たりの生産性向上のためのKPIの設定とその遵守に向けた取り組み  ➤ 全グループ会社のシステム最適化プロジェクトの推進、生産管理業務の効率化と在庫削減 	  

ACTIONS Phs2 2030の取り組み

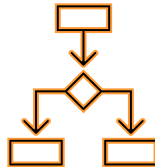
ACTIONS	課題解決への施策	SDGsとの関係
Topical Production (話題性のある製品・部商品の開発)	➤ 次世代機の開発促進: Automaticから生成AI技術へ進化 ➤ 国内には存在しない機種を業務提携会社のFraste社(伊)製機種を国内導入 ➤ Eドリルの開発 ➤ カスタマーサービスセンターを始動:レンタルとメンテナンスの一体営業 	   

ACTIONS Phs2 2030の取り組み

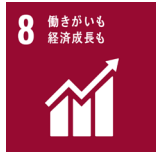
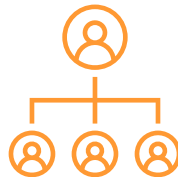
ACTIONS	課題解決への施策	SDGsとの関係
Initiative Marketing (創造性のある営業活動)	➤ 顧客との協業によるONE & ONLYの機種開発 ➤ 鉦研スピリット3Sをコンセプトにした機種販売促進 ➤ グループ会社クリステンセン・マイカイとの協業販売 ➤ ブルーオーシャン市場の開拓 まずはプライベートビーチの調査	 



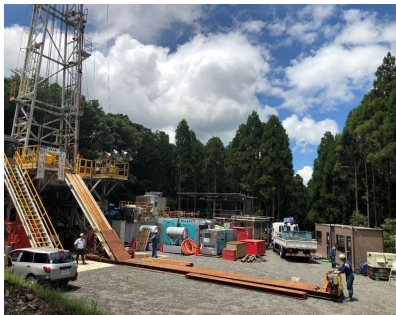
ACTIONS Phs2 2030の取り組み

ACTIONS	課題解決への施策	SDGsとの関係
Organization Reactivation (組織の再活性化)	➤グループ会社へのシステムとガバナンスの統一化 ➤新人事制度の導入～年功序列型から脱皮 ➤女性管理職比率を12%へ ➤ローカルスタッフ(インド、アフリカ)の積極採用へ	    5 ジェンダー平等を実現しよう  7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに  9 産業と技術革新の基盤をつくろう 

ACTIONS Phs2 2030の取り組み

ACTIONS	課題解決への施策	SDGsとの関係
New Managing Strength (新しい経営体質)	➤ 業務提携可能な信頼 できる会社とのパー トナースhip	 
	➤ サクセッションプラン ニングの導入 (次世代役員と中堅社 員の育成)	 
	➤ 執行取締役と社外取 締役比率を50%へ 女性比率15%以上	

ACTIONS Phs2 2030の取り組み

ACTIONS	課題解決への施策	SDGsとの関係
SDGs (持続可能な 開発目標の達成)	➤ グループ会社のRE100 ➤ 再生エネルギー(地熱)への積極的技術供与 (株クリステンセン・マイカイ) ➤ グローバルサウスへの地下水ビジネス活動始動	    6 安全な水とトイレを世界中に 8 働きがいも経済成長も 17 パートナースhipで目標を達成しよう SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ACTIONSの進捗

ACTIONS進捗度

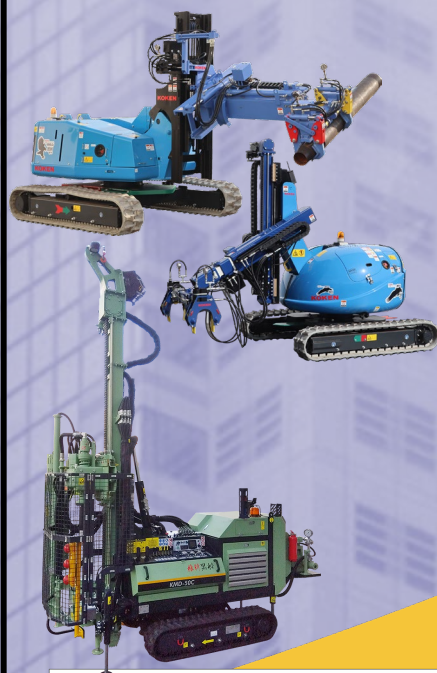


伊勢原新工場 稼働中

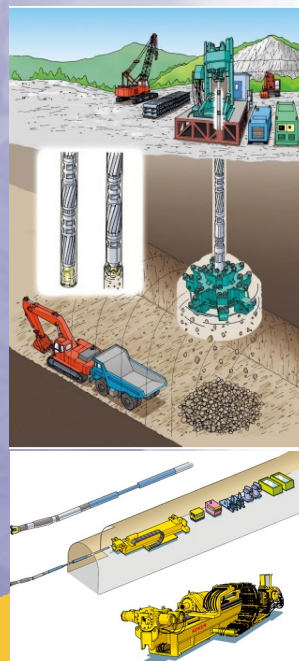


企業価値の向上
株主利益の確保

DE&I
の推進



ONE & ONLYの製品市場へ投入



K MAIKAT
マシナリー

地球に
KOKEN
する会社。

K1
K-ADVANCE

支える力!
KCC
KOZO CONSTRUCTION CO., LTD.

2026

2027

2028

2029

2030



将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。
無断転載を禁ずる。